

解答

一　問一　問二　問三　問四　問五　問六　問七
 2 (2) (1) 1 3 4, 6 文化 兆候
 B (イ) 論理 伝承
 C (ウ) 感情 独創
 (エ) 誠意

相手の感情をいたわること
 共同の前提となる統一された文化

二　問一　問二　問三　問四　問五　問六　問七
 1, 2 4 4 1 a
 5 2 b 3
 c 2

三　問一　問二　問三　問四　問五　問六　問七
 1 2 4 4 1 a
 5 2 b 3
 c 2

四　問一　問二　問三　問四　問五　問六　問七
 ア 7 イ 2 ウ 8 エ 6 オ 1

解説

一

第三段落に着目します。「個人の心理の内奥を、おそらくしぐさはのぞかせるものである。」という記述から選択肢4がふさわしいことがわかります。また、同時に、しぐさは一つの文化であり、社会のさまざまな集団につたわるもので、個人としてのしぐさ、社会に共通のしぐさをもつという内容から、選択肢6もふさわしいことがわかります。

「客観的に観察すると、あいづちというのはなにかしら異様に同調的な態度をきわだたせてしまう」という記述に着目すると、「――線③の意味として、ヨーロッパ人のものの見方を客観的であると考えて、日本人のあいづちを観察していることがわかり、最もふさわしいものは選択肢1になります。

二

――線①の後にある「まり子は、だんだん手も足も首までちぢんでいくようならばあちゃんを見るのが、いや

だつた」、「まり子のばあちゃんは、いつでも元気でたのもしくなければいやだつた。」という記述から、選択肢1がふさわしいことがわかります。

――線③の後にある、「ばあちゃんのおまるが消えていることを知ったまり子の様子に着目します。ばあちゃんが、ねえちゃんとめいわくかけたくないくて、朝からお茶も水ものまなかつたことに気づいたという内容から、最もふさわしいものは選択肢4になります。

三

――線①の後にある「まり子は、だんだん手も足も首までちぢんでいくようならばあちゃんを見るのが、いや

だつた」、「まり子のばあちゃんは、いつでも元気でたのもしくなければいやだつた。」という記述から、選択肢1がふさわしいことがわかります。

――線③の後にある、「ばあちゃんのおまるが消えていることを知ったまり子の様子に着目します。ばあちゃんが、ねえちゃんとめいわくかけたくないくて、朝からお茶も水ものまなかつたことに気づいたという内容から、最もふさわしいものは選択肢4になります。

四

――線①の後にある「まり子は、だんだん手も足も首までちぢんでいくようならばあちゃんを見るのが、いや

だつた」、「まり子のばあちゃんは、いつでも元気でたのもしくなければいやだつた。」という記述から、選択肢1がふさわしいことがわかります。

――線③の後にある、「ばあちゃんのおまるが消えていることを知ったまり子の様子に着目します。ばあちゃんが、ねえちゃんとめいわくかけたくないくて、朝からお茶も水ものまなかつたことに気づいたという内容から、最もふさわしいものは選択肢4になります。

五

――線①の後にある「まり子は、だんだん手も足も首までちぢんでいくようならばあちゃんを見るのが、いや

だつた」、「まり子のばあちゃんは、いつでも元気でたのもしくなければいやだつた。」という記述から、選択肢1がふさわしいことがわかります。

――線③の後にある、「ばあちゃんのおまるが消えていることを知ったまり子の様子に着目します。ばあちゃんが、ねえちゃんとめいわくかけたくないくて、朝からお茶も水ものまなかつたことに気づいたという内容から、最もふさわしいものは選択肢4になります。

六

――線①の後にある「まり子は、だんだん手も足も首までちぢんでいくようならばあちゃんを見るのが、いや

だつた」、「まり子のばあちゃんは、いつでも元気でたのもしくなければいやだつた。」という記述から、選択肢1がふさわしいことがわかります。

――線③の後にある、「ばあちゃんのおまるが消えていることを知ったまり子の様子に着目します。ばあちゃんが、ねえちゃんとめいわくかけたくないくて、朝からお茶も水ものまなかつたことに気づいたという内容から、最もふさわしいものは選択肢4になります。

七

――線①の後にある「まり子は、だんだん手も足も首までちぢんでいくようならばあちゃんを見るのが、いや

だつた」、「まり子のばあちゃんは、いつでも元気でたのもしくなければいやだつた。」という記述から、選択肢1がふさわしいことがわかります。

――線③の後にある、「ばあちゃんのおまるが消えていることを知ったまり子の様子に着目します。ばあちゃんが、ねえちゃんとめいわくかけたくないくて、朝からお茶も水ものまなかつたことに気づいたという内容から、最もふさわしいものは選択肢4になります。

八

問三

□の後には、「荒野」や「旅」が続いているので、たとえられている同じことばとして最もふさわしいものは、選択肢2の「人生」になります。

「日も月も／流れて行きます／愛もまた流れ去る」の部分から、過去の失恋であることがわかり、「今まさにかなわぬ恋に心を痛めている」という記述を含む選択肢1はBになります。また、詩の終わりには

「風のつよい日／遠くの野には花があると／じぶんにいい聞かせて歩きました」とあり、つらい日にめげずに前に進む様子が伝わってくるので「明るい未来が目前に広がっていることを暗示したもの」という記述を含む選択肢2もBになります。「遠くの野には花がある」は、前後にある「風のつよい日」、「じぶんにいい聞かせて歩きました」から、未来の希望を表していることがわかるので、選択肢3はAになります。

問四